

AIMaP 研究集会等実施報告書

(Part 1/4) 名称・重点テーマ・キーワード等

項目	内容
名称	数理科学オープンイノベーションセッション
採択番号	2020A002
重点テーマ	数学者と企業人の対話
キーワード	対話のファシリテート
主催機関	東北大学数理科学連携研究センター 東北大学 AIMR 数理科学オープンイノベーションセンター
運営責任者	水藤 寛
開催日時(開始)	2020/12/2 18:30
開催日時(終了)	2020/12/16 21:30
開催場所	オンライン

(Part 2/4) 最終プログラム・参加者数

項目	内容
最終 プログラム	<u>Step1: イントロダクション</u> 18:30-18:45(15分) 趣旨説明・自己紹介
	<u>Step2: インスピレーショントーク</u> 18:45-19:55(70分) 数学者からのインプット 企業参加者からの自己紹介
	<u>Step3: 対話 1 研究内容の理解</u> 19:55-20:40(45分) 数学者と企業参加者との対話
	<u>Step4: 対話 2 価値と活用方法の探求</u> 20:40-21:25(45分) 数学者と企業参加者との対話
	<u>Step5: クロージング</u> 21:25-21:30(5分) 全体共有
参加者数	数学・数理科学:4人, 諸科学:0人, 産業界:4人, その他:3人

(Part 3/4) 論点・現状・今後の展開

項目	内容
当日の論点	企業課題 数学の価値 企業側から見た数学の活用方法
研究の現状と課題(既にできていること、できていないことの切り分け)	数学者と産業界の意思疎通の不足
新たに明らかになった課題	今回は、テーマを決めずに、産業界も多様な業種業界の方々に参加いただいたが、3人の数学者は、ほどよく研究分野が連携していて、回を重ねるごとに徐々に深まり具体化されていった。 今後は、数学に馴染みのある産業界の部門の方々(情報処理・研究開発など)に絞ってお招きすることで、より具体的な企業の課題解決につなげることが可能ではないかと考える。
今後解決すべきこと、今後の展開・フォローアップ	数学者の研究と企業課題の両方をそれぞれ深める時間を丁寧に取ることによって、両者の接点を見出すことが可能となったが、限られた時間の中で、数学者のインプットが難解かつ大量だったため、企業参加者の負担が大きく、数学の根本的な理解を素早く進めるためにも、数学者と企業の間をつなぐトランスレーターを配置する、あるいは、相手に合わせての臨機応変な伝え方が必要になると思われる。

(Part 4/4) 写真

項目	内容
添付写真 1	 <p>東北大学 産学連携企画 数理科学オープンイノベーションセッション 開催報告書</p>